

(9) 男女共同参画全般について

問 34 あなたは、女性が仕事をもつことについてどのようにお考えですか。(1つに○)

女性が仕事を持つことについては、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつほうがよい」の割合が最も高く 37.7%となっており、次いで「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」の割合が 28.3%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」の割合が高く、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつほうがよい」の割合が低くなっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、女性の 40 歳代以下で「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」の割合が高くなっています。また、男性の 30 歳代、40 歳代で「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」の割合が高くなっています。

図 女性が仕事をもつこと

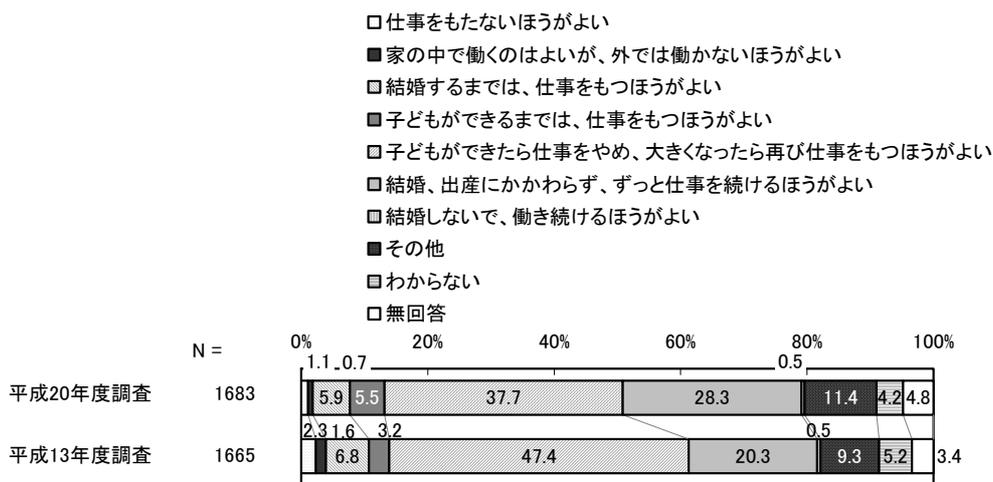


図 性別でみる女性が仕事をもつこと

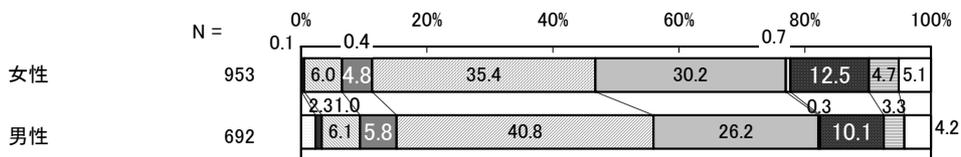
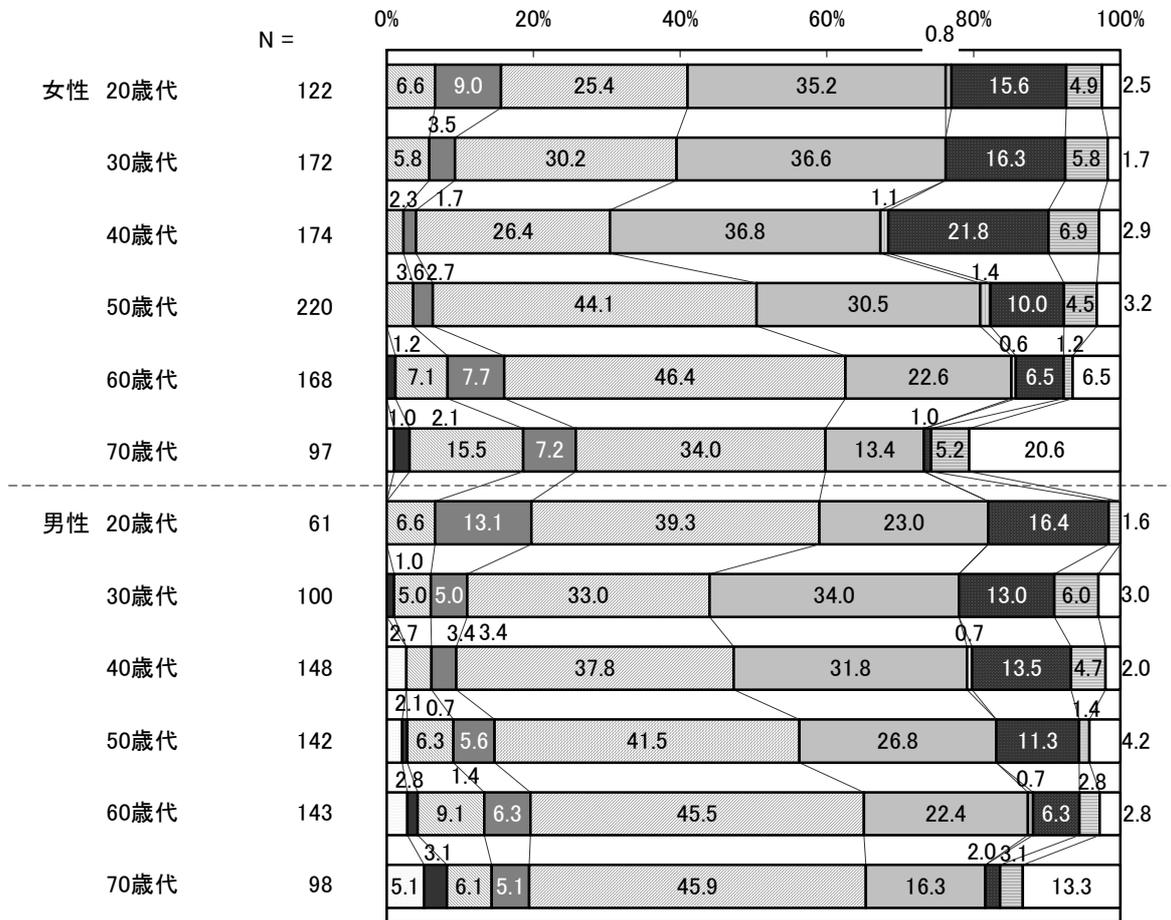


図 性・年代別でみる女性が仕事をもつこと

- 仕事をもたないほうがよい
- 家の中で働くのはよいが、外では働かないほうがよい
- 結婚するまでは、仕事をもつほうがよい
- 子どもができるまでは、仕事をもつほうがよい
- 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつほうがよい
- 結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい
- 結婚しないで、働き続けるほうがよい
- その他
- わからない
- 無回答



問 35 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”の人の割合が41.2%、「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた“反対”の人の割合が42.7%となっています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた“反対”の人の割合が低くなっています。

性別で見ると、女性に比べ男性で「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”の人の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、女性の40歳代で「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”の人の割合が低くなっています。また、男性の20歳代、40歳代で「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた“反対”の人の割合が高くなっています。

図 「男は仕事、女は家庭」という考え方

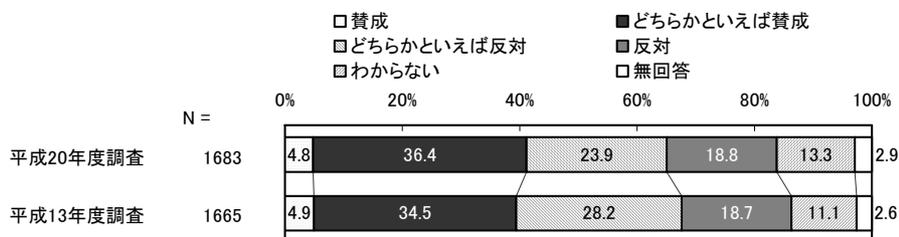


図 性別でみる「男は仕事、女は家庭」という考え方

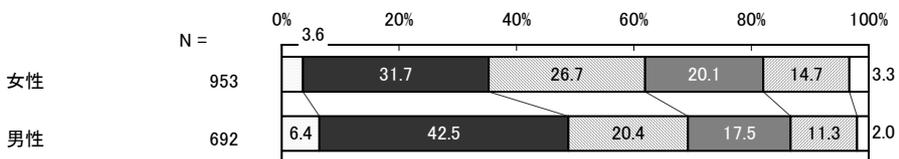
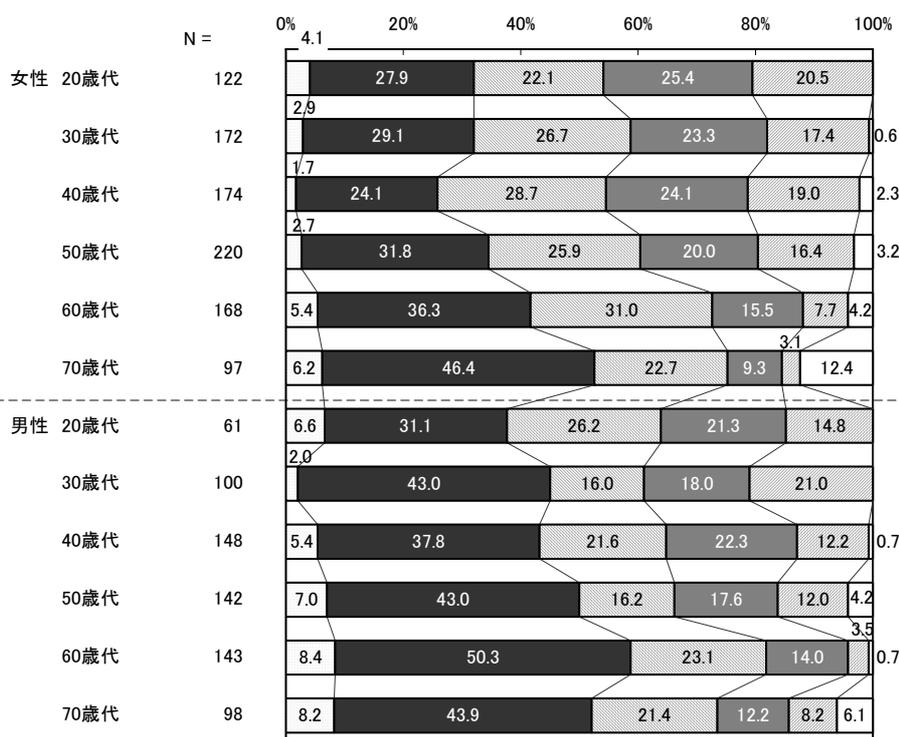


図 性・年代別でみる「男は仕事、女は家庭」という考え方



問 36 あなたは、次にあげるような分野で男女の立場が平等になっていると思いますか。(1～6のそれぞれ1つに○)

分野別で見ると、他の分野に比べ「学校教育」、「地域活動」では「充分平等になっている」「ある程度平等になっている」を合わせた男女平等になっていると思う人の割合が高く、5割以上を占めています。また、他の分野に比べ「しきたりや習慣」では「あまり平等になっていない」「全く平等になっていない」を合わせた男女平等になっていないと思う人の割合が高く、約6割を占めています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、大きな差異はみられません。

図 男女の立場が平等になっているか (平成20年度調査)

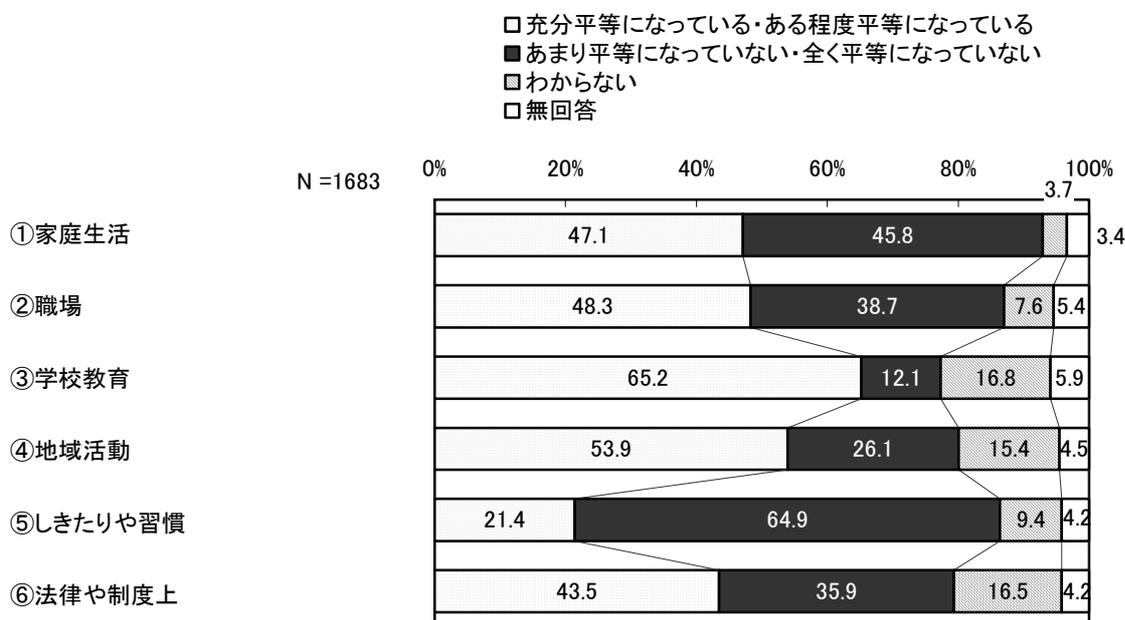
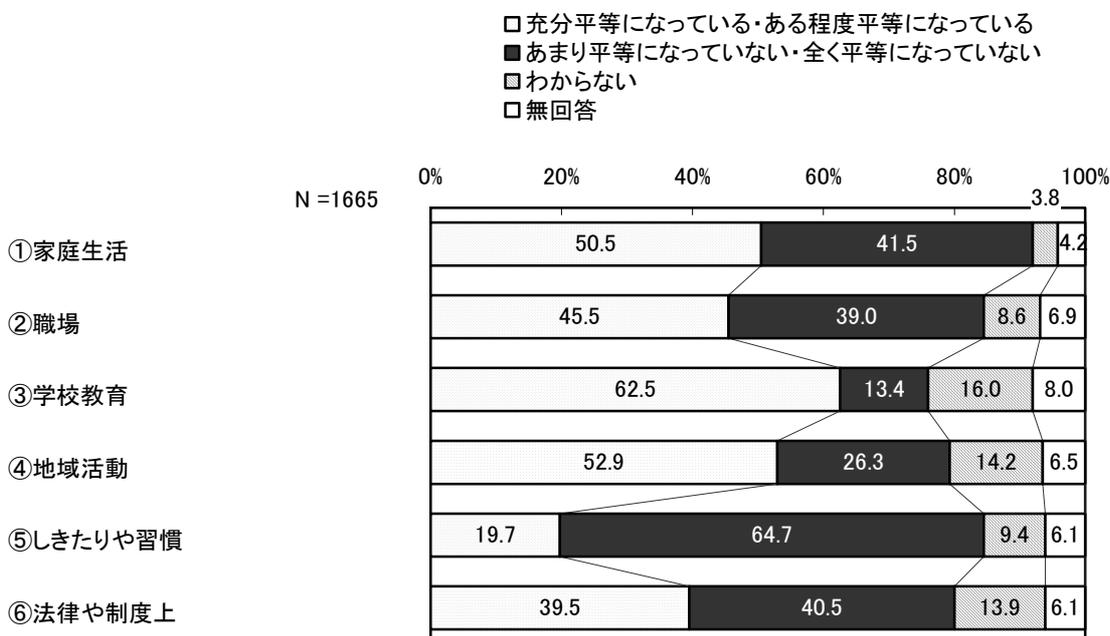
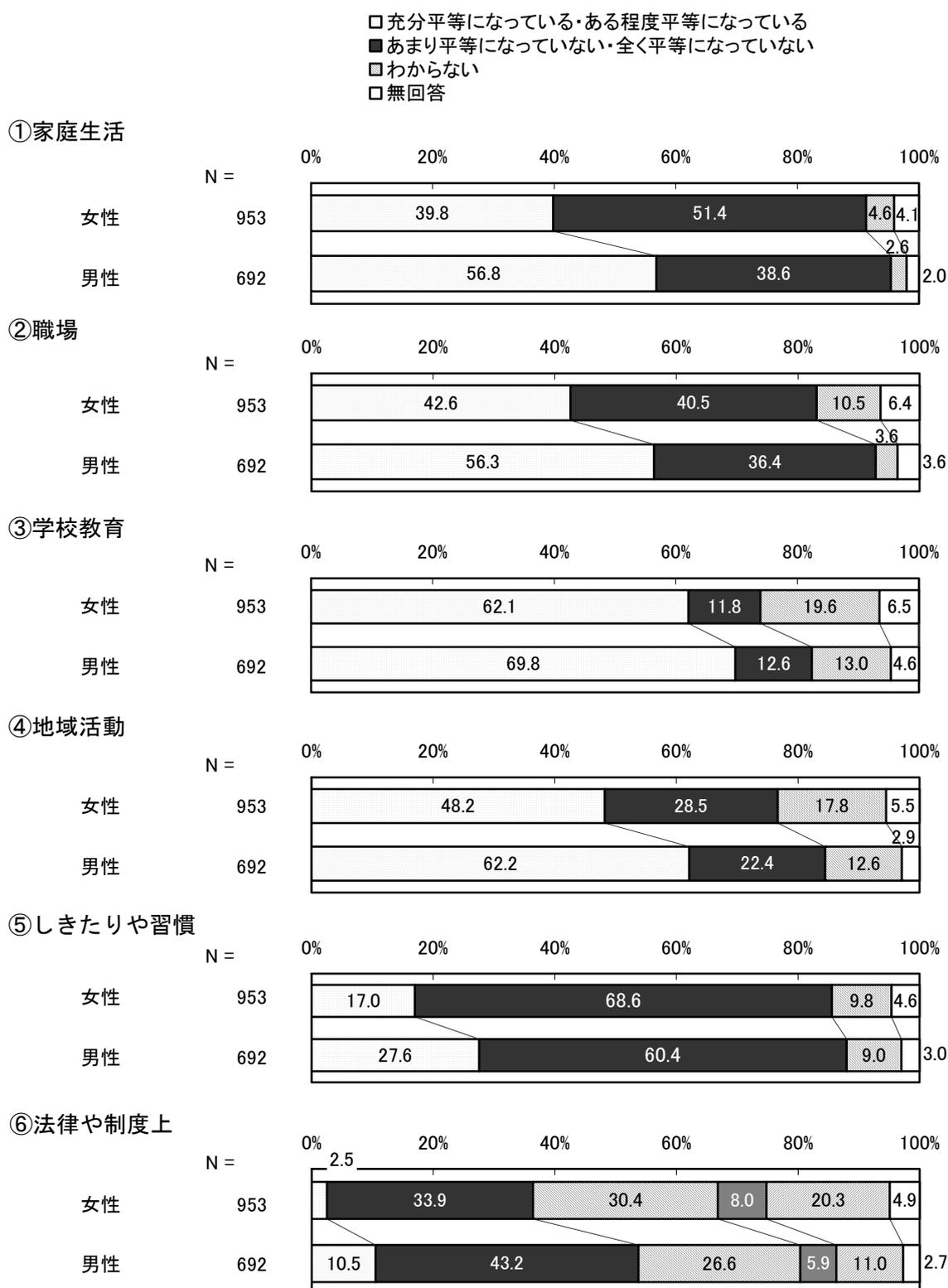


図 男女の立場が平等になっているか (平成13年度調査)



性別でみると、全ての分野で、女性に比べ男性で男女平等になっていると思う人の割合が高くなっています。一方で、「家庭生活」、「職場」、「地域活動」、「しきたりや習慣」では男性に比べ女性で男女平等になっていないと思う人の割合が高くなっています。

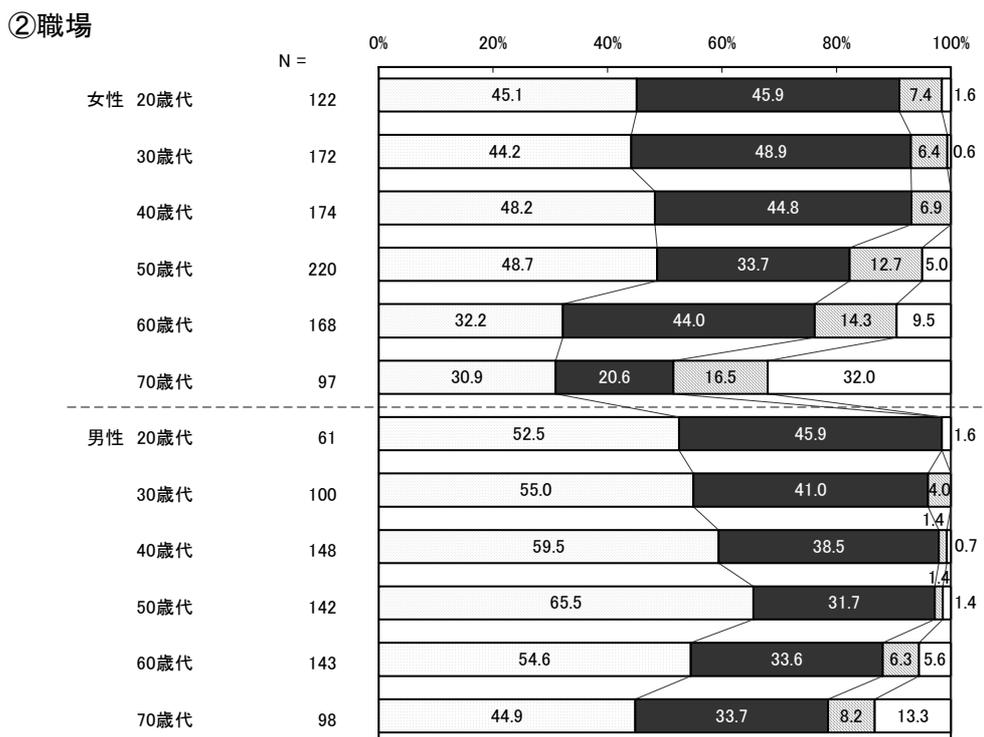
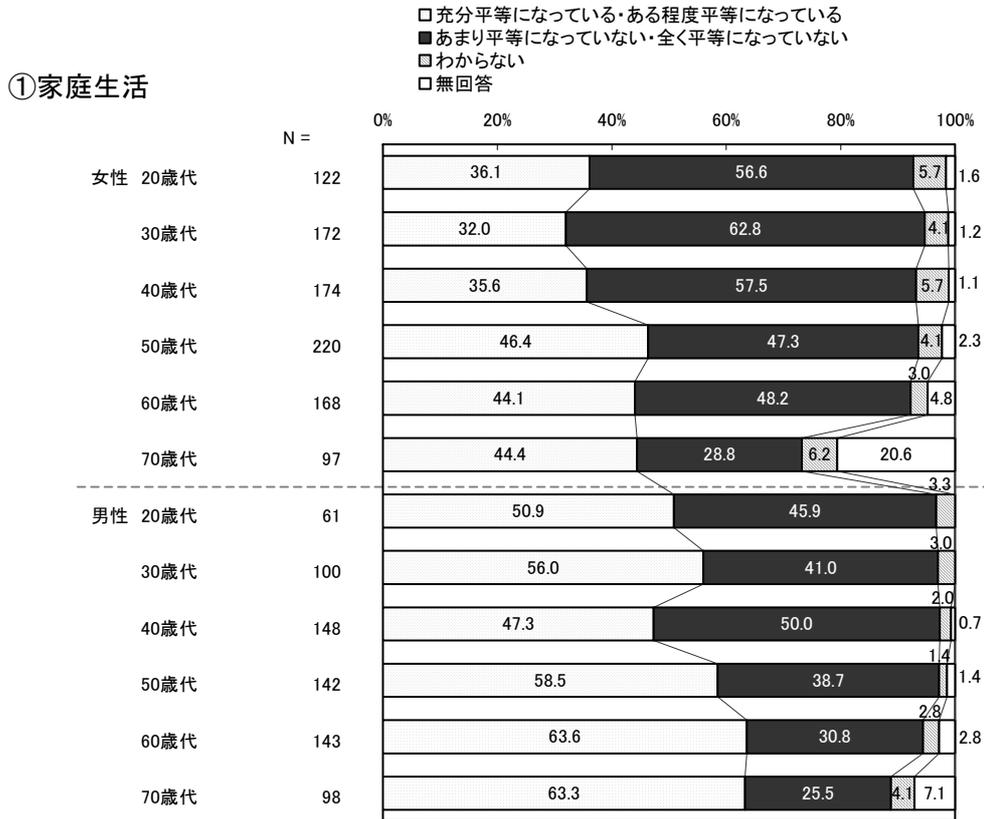
図 性別でみる男女の立場が平等になっているか



性・年代別でみると、「家庭生活」では男女ともに40歳代以下で男女平等になっていないと思う人の割合が高くなっています。

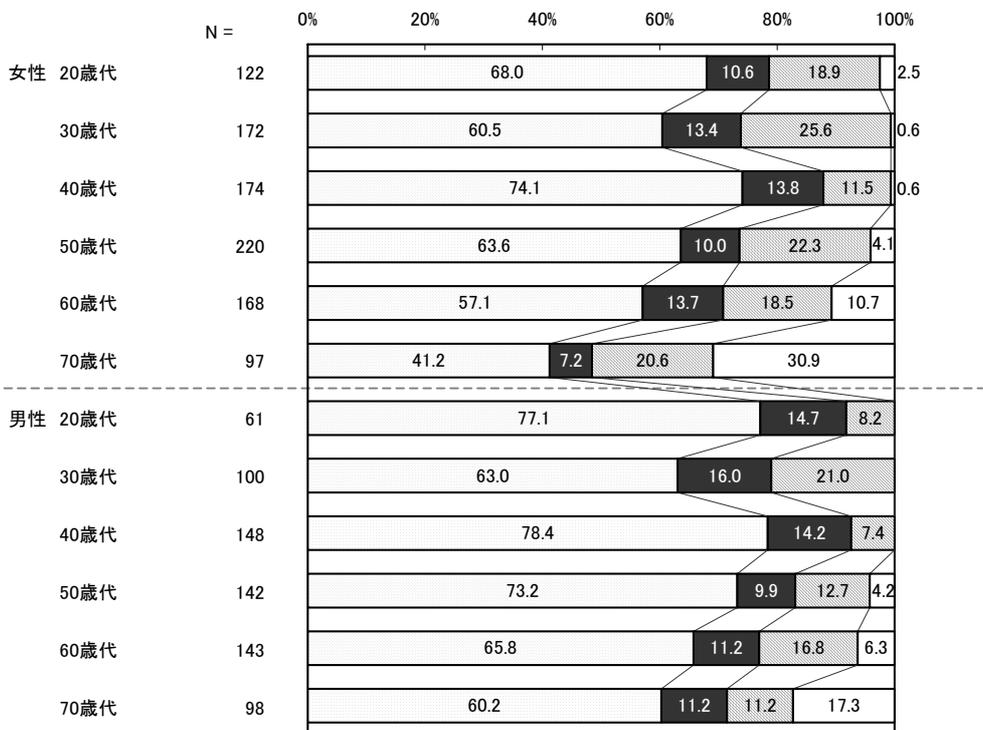
「職場」、「しきたりや習慣」では他の年代に比べ女性の60歳代以下で、「法律や制度上」では20歳代から40歳代で男女平等になっていないと思う人の割合が高くなっています。

図 性・年代別でみる男女の立場が平等になっているか

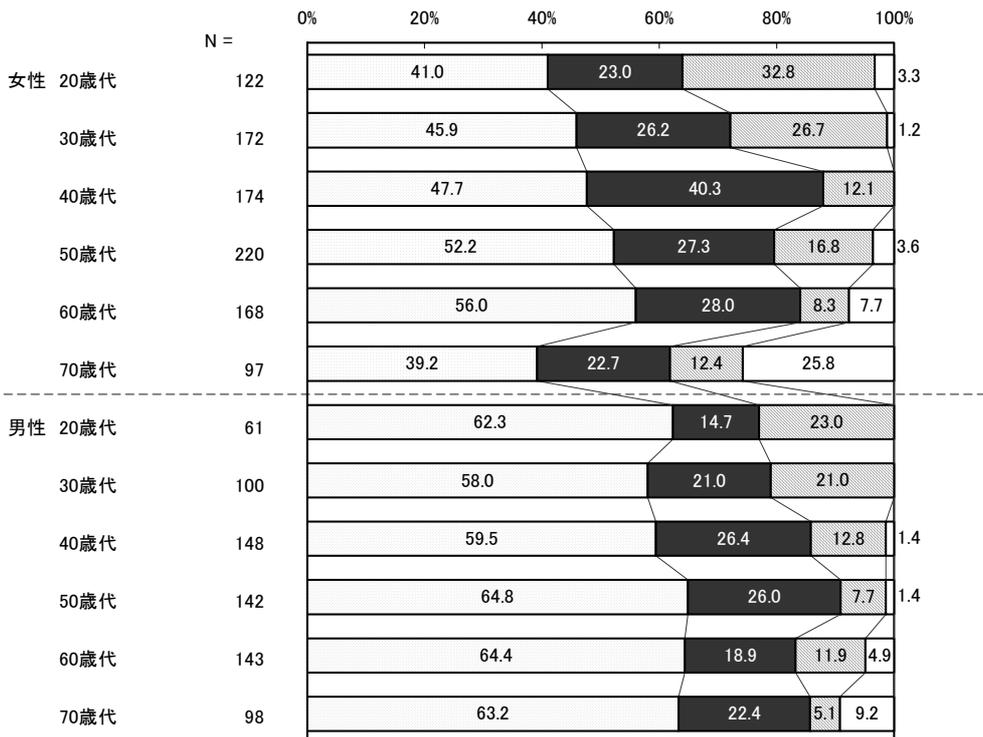


- 充分平等になっている・ある程度平等になっている
- あまり平等になっていない・全く平等になっていない
- ▨ わからない
- 無回答

③ 学校教育

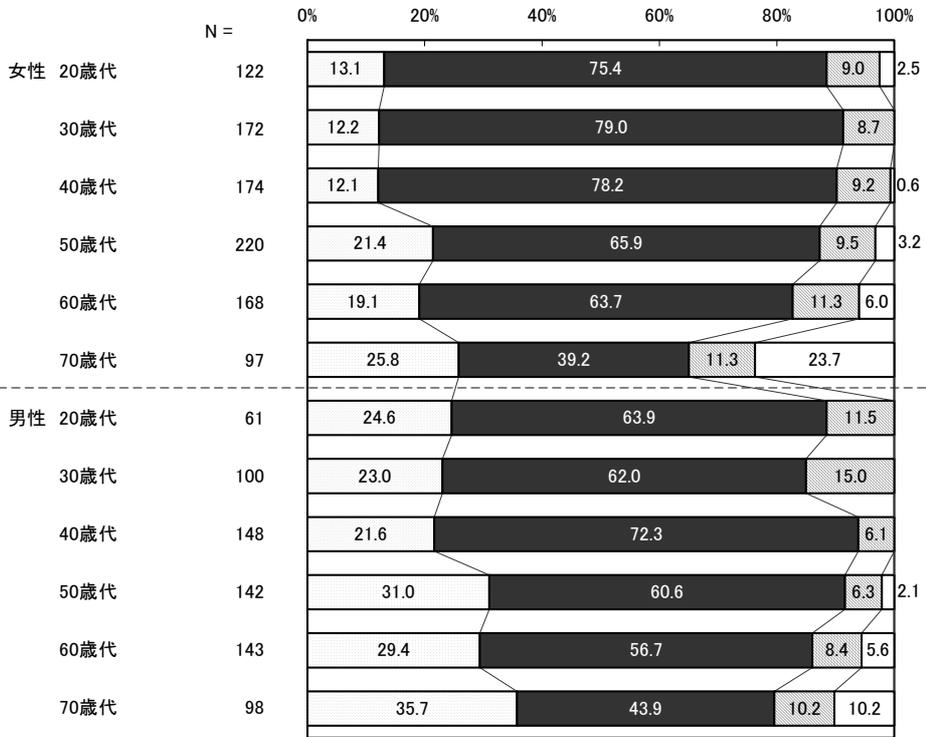


④ 地域活動

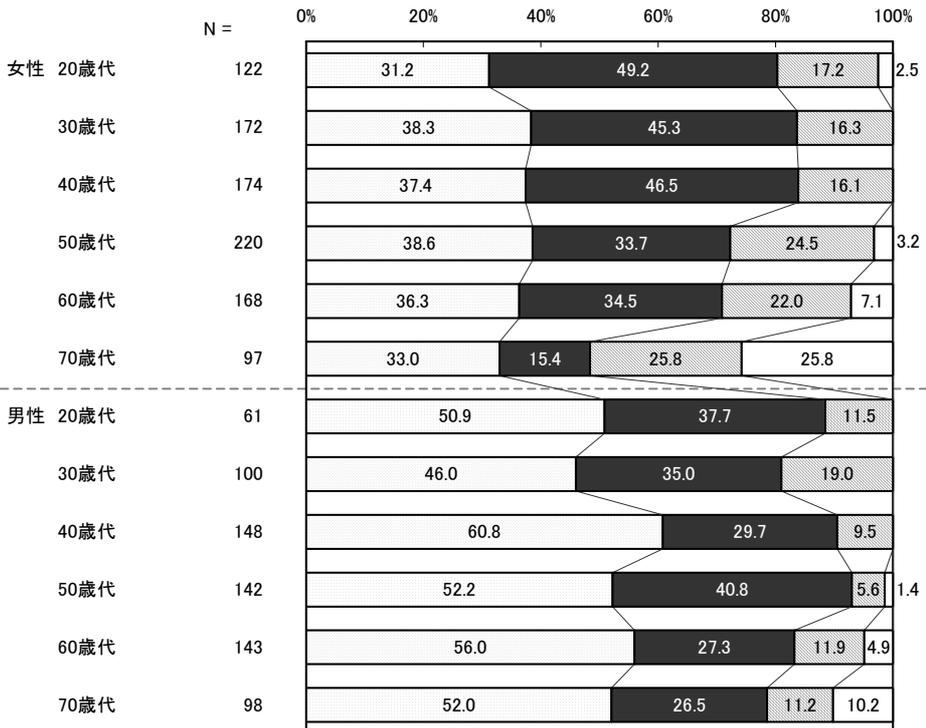


□ 充分平等になっている・ある程度平等になっている
 ■ あまり平等になっていない・全く平等になっていない
 □ わからない
 □ 無回答

⑤ しきたりや習慣



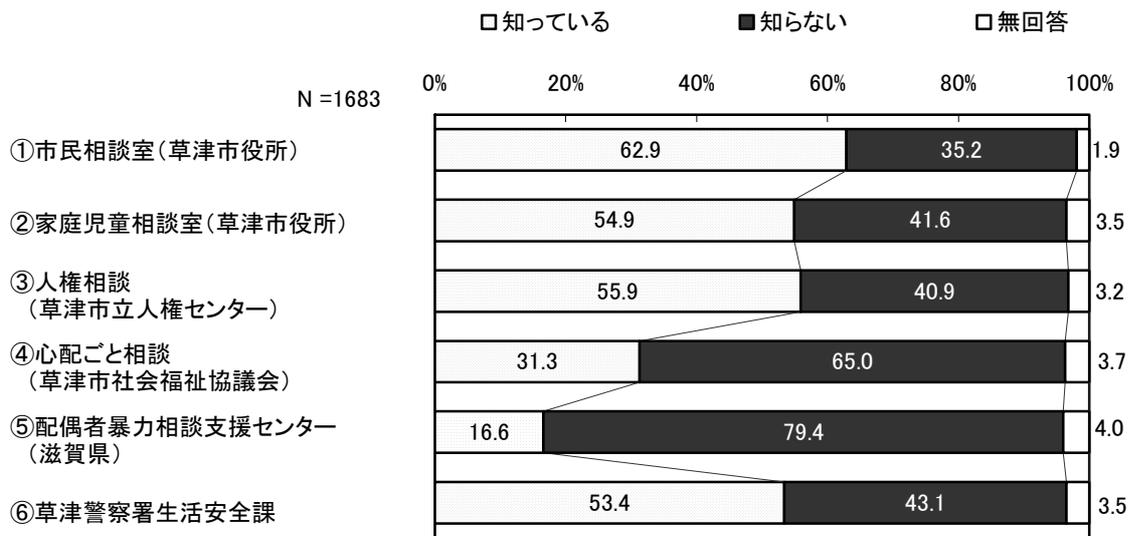
⑥ 法律や制度上



問 37 あなたは、次の相談窓口を知っていますか。(1～6のそれぞれ1つに○)

各相談窓口の周知状況については、他の窓口 비해「配偶者暴力相談支援センター(滋賀県)」、「心配ごと相談(草津市社会福祉協議会)」で「知っている」の割合が低くなっています。

図 相談窓口の周知状況

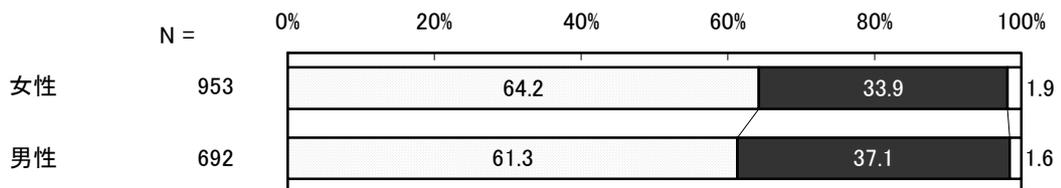


性別でみると、「草津警察署生活安全課」では女性に比べ男性で「知っている」の割合が高くなっています。その他の窓口では男性に比べ女性で「知っている」の割合が高くなっています。

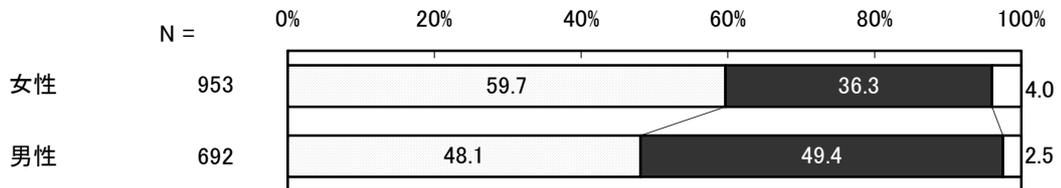
図 性別でみる相談窓口の周知状況

□知っている ■知らない □無回答

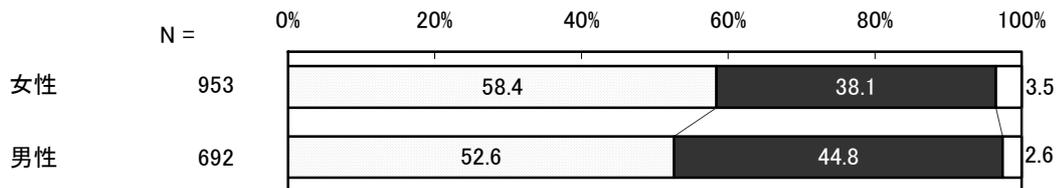
①市民相談室（草津市役所）



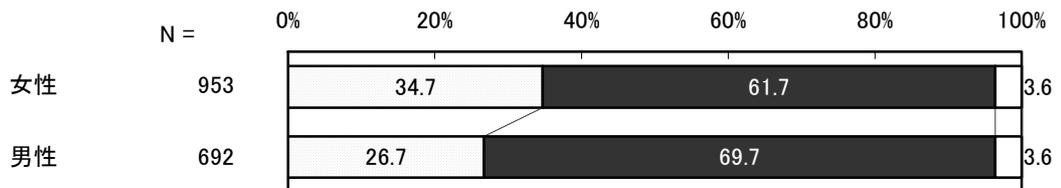
②家庭児童相談室（草津市役所）



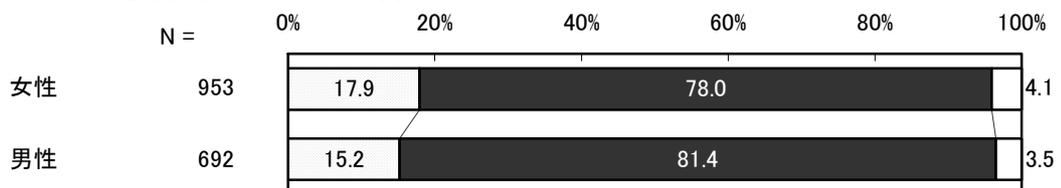
③人権相談（草津市立人権センター）



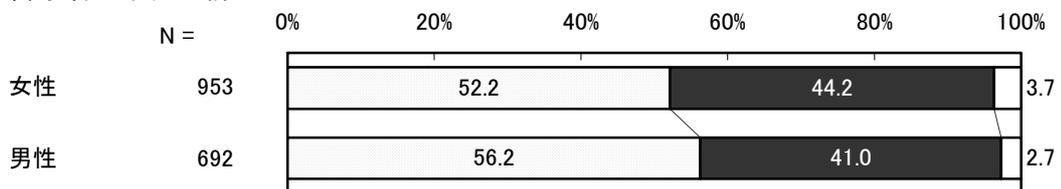
④心配ごと相談（草津市社会福祉協議会）



⑤配偶者暴力相談支援センター（滋賀県）

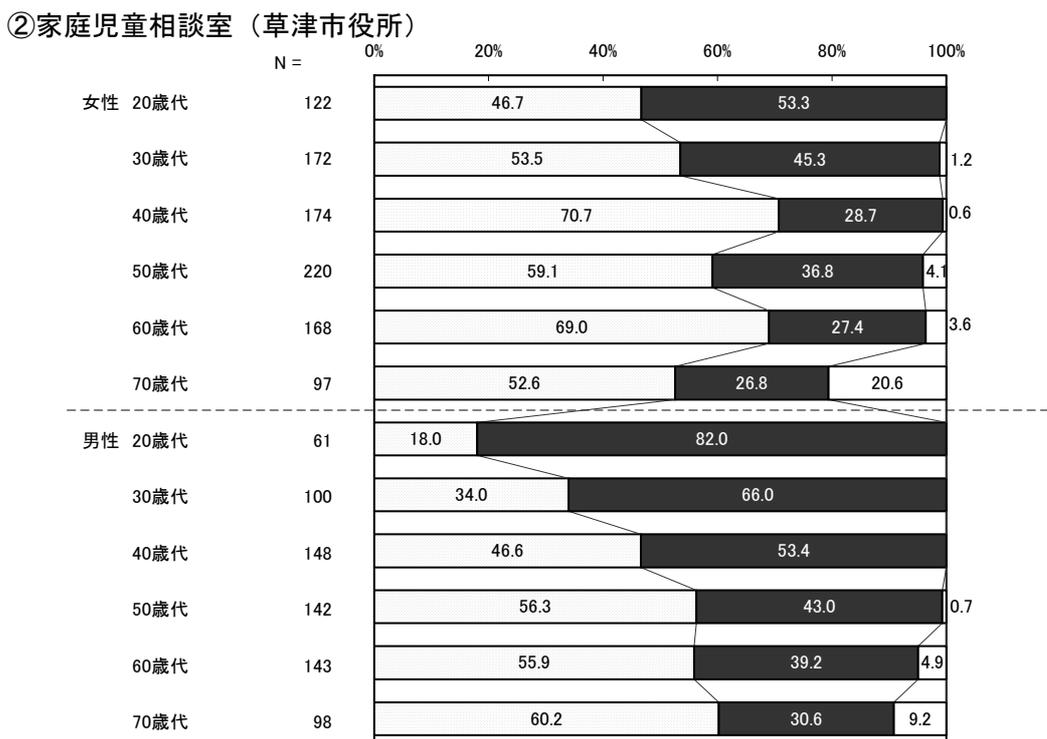
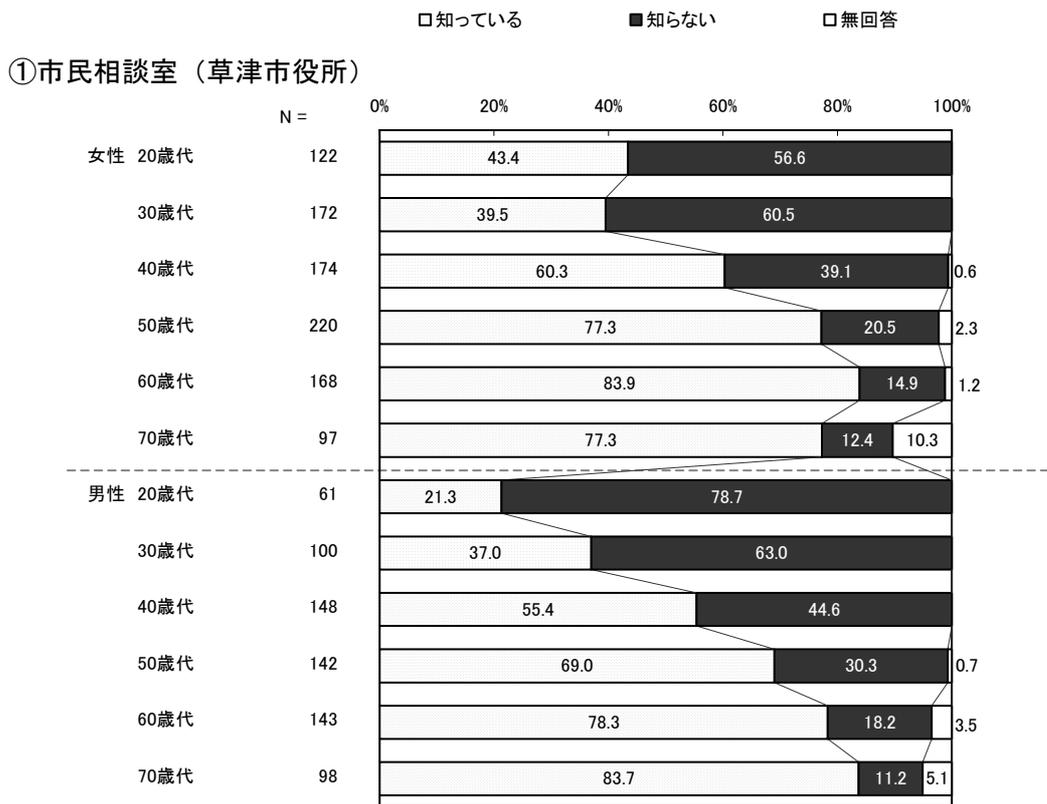


⑥草津警察署生活安全課



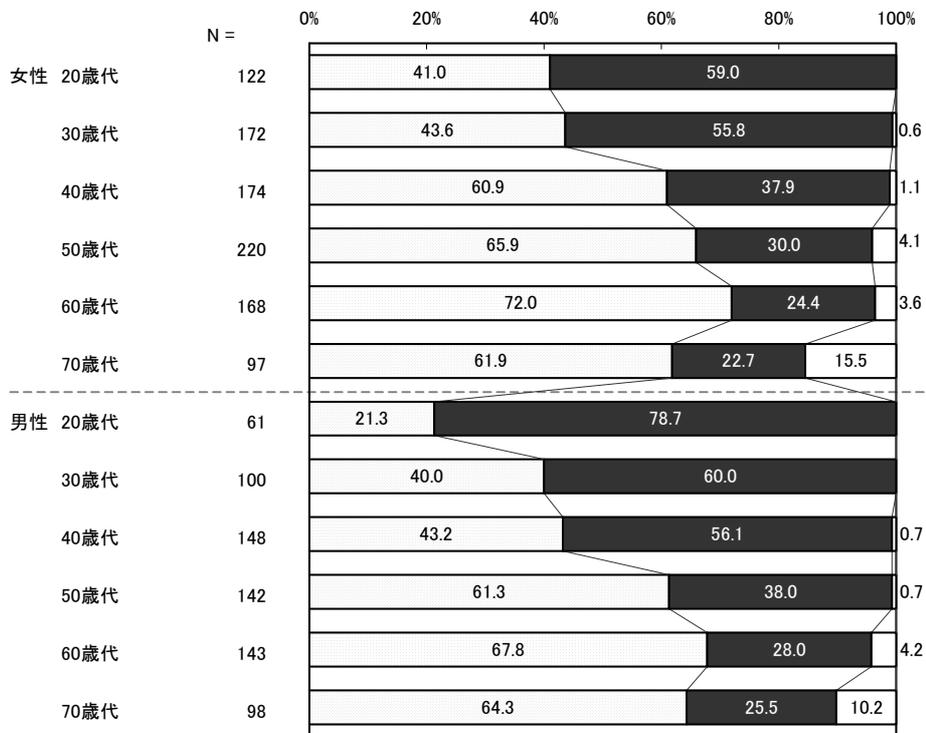
性・年代別でみると、「市民相談室（草津市役所）」、「家庭児童相談室（草津市役所）」、「人権相談（草津市立人権センター）」、「心配ごと相談（草津市社会福祉協議会）」、「草津警察署生活安全課」では男女ともに20歳代、30歳代で「知っている」の割合が低くなっています。また、「配偶者暴力相談支援センター（滋賀県）」では男女ともに60歳代以上で「知っている」の割合が高くなっています。

図 性・年代別でみる相談窓口の周知状況

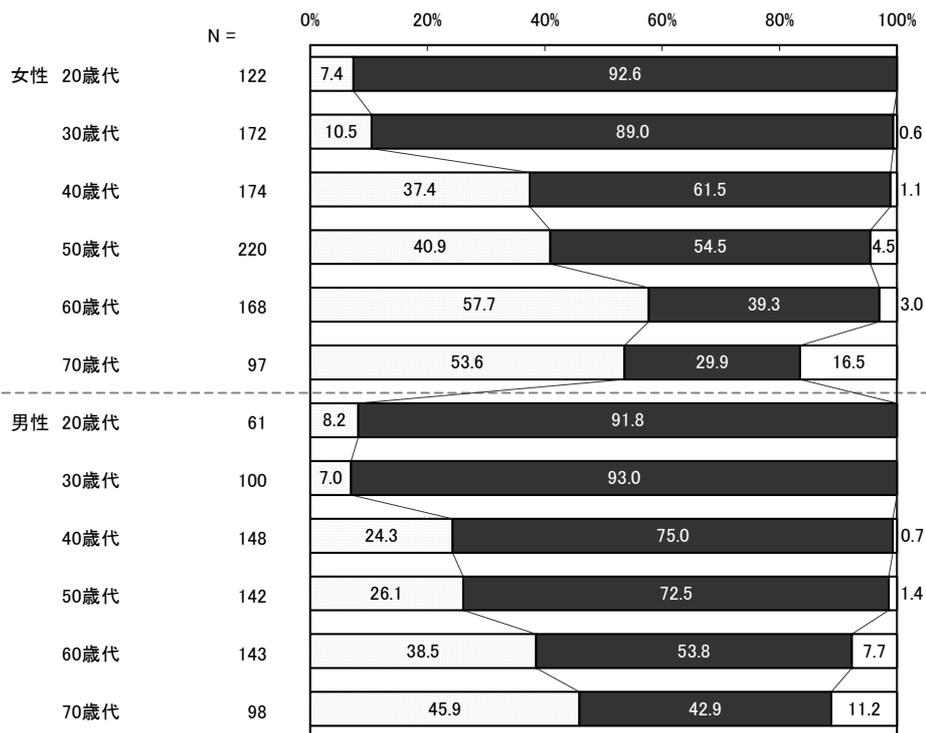


□知っている ■知らない □無回答

③人権相談（草津市立人権センター）

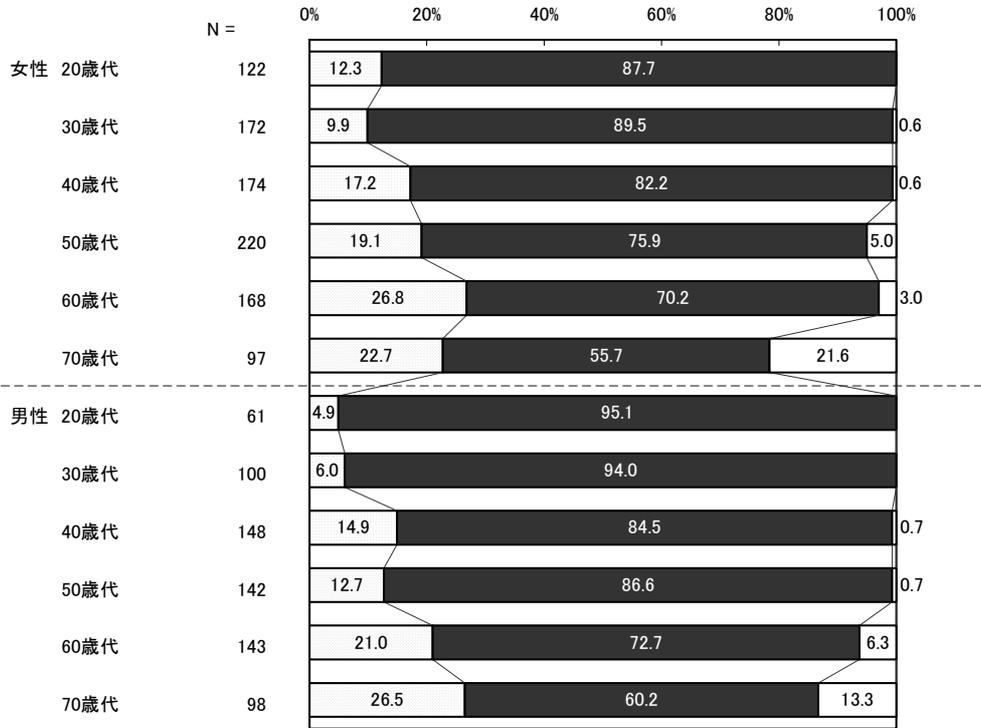


④心配ごと相談（草津市社会福祉協議会）

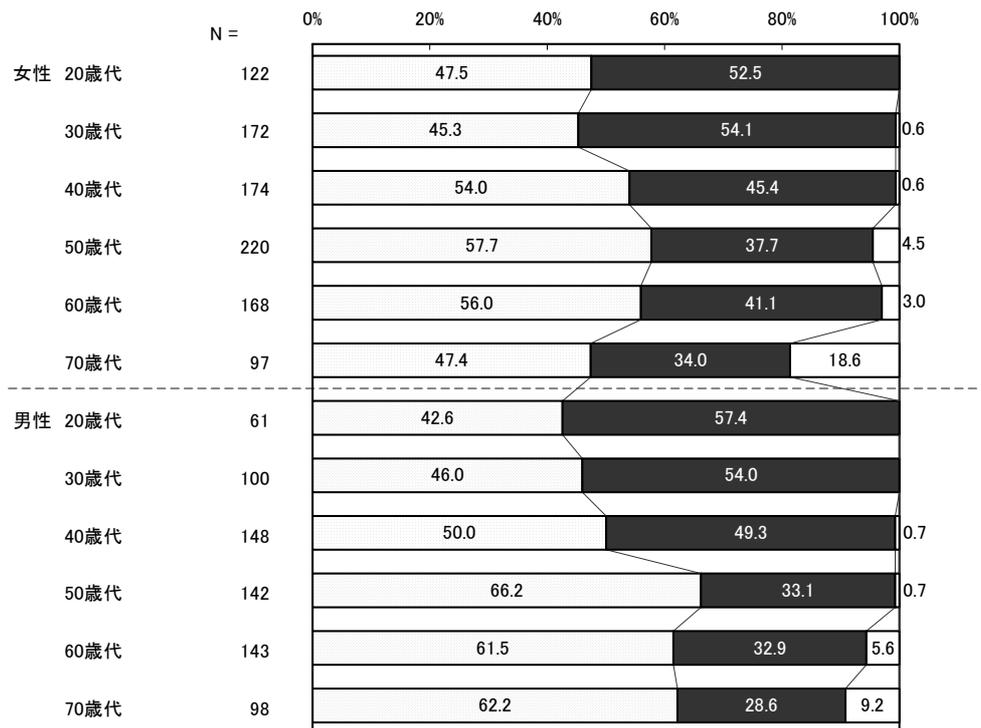


□知っている ■知らない □無回答

⑤配偶者暴力相談支援センター（滋賀県）



⑥草津警察署生活安全課



問 38 次の言葉について、知っていましたか。(1～10のそれぞれ1つに○)

各言葉の周知状況については、他の言葉に比べ「草津市男女共同参画推進計画『女(ひと)と男(ひと)のパートナープラン・くさつ』」、「女子差別撤廃条約」、「エンパワーメント」、「ジェンダー」、「家族経営協定」で「知らなかった」の割合が高くなっています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、「男女共同参画社会基本法」、「ジェンダー」で「知らなかった」の割合が低くなっています。また、「ドメスティック・バイオレンス」で「知っていた」の割合が高くなっています。

図 言葉の周知状況 (平成20年度調査)

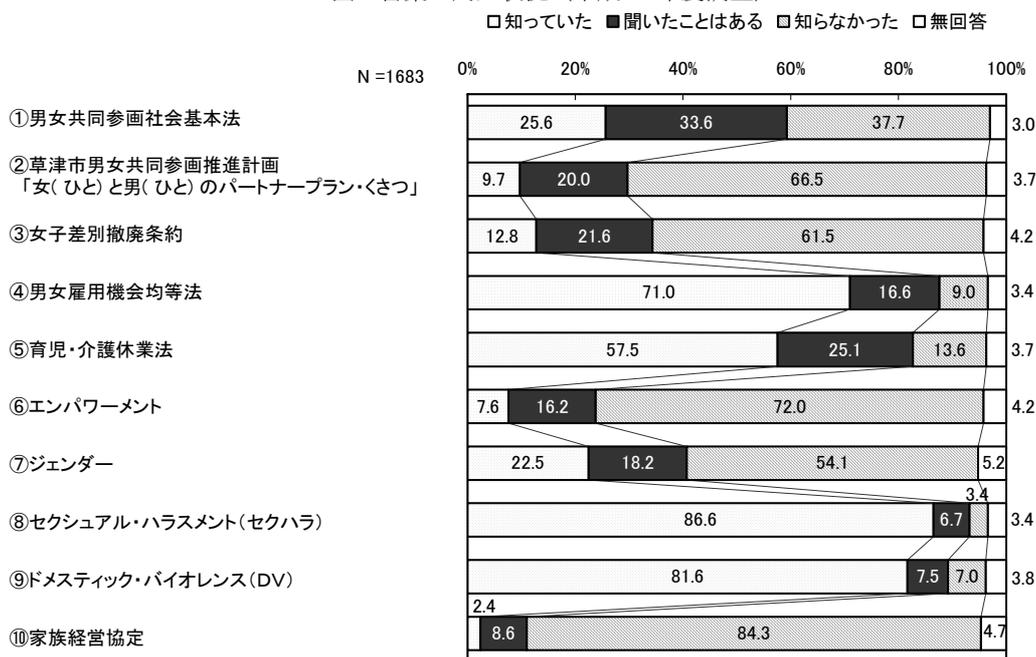
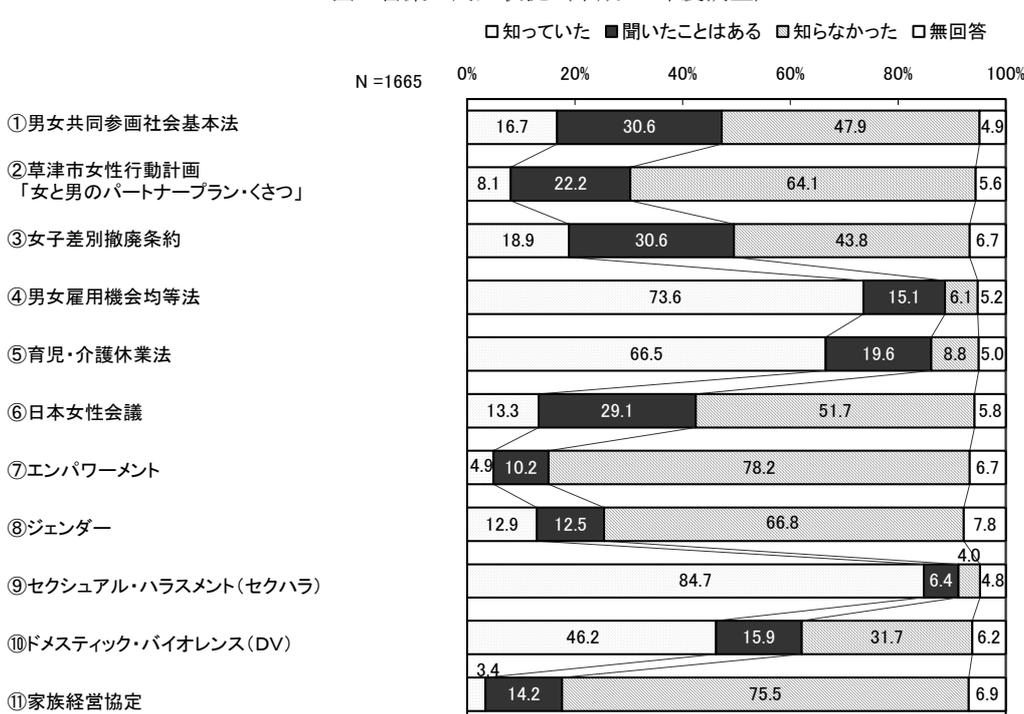


図 言葉の周知状況 (平成13年度調査)

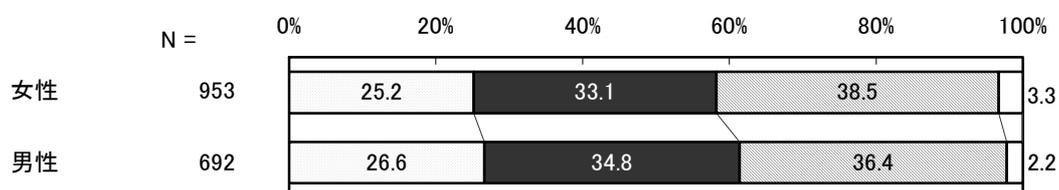


性別でみると、「草津市男女共同参画推進計画『女（ひと）と男（ひと）のパートナープラン・くさつ』」では女性に比べ男性で「知らなかった」の割合が高く、「男女雇用機会均等法」では女性に比べ男性で「知っていた」の割合が高く、「育児・介護休業法」、「エンパワーメント」では女性に比べ男性で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。

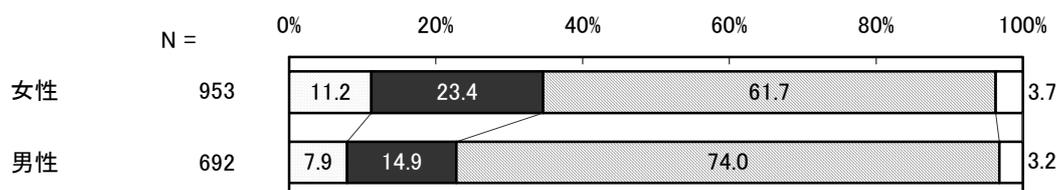
図 性別でみる言葉の周知状況

□知っていた ■聞いたことはある ▨知らなかった □無回答

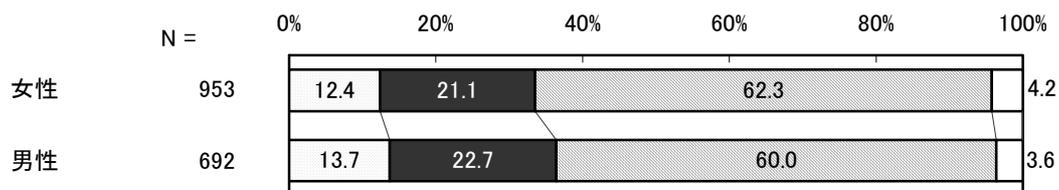
①男女共同参画社会基本法



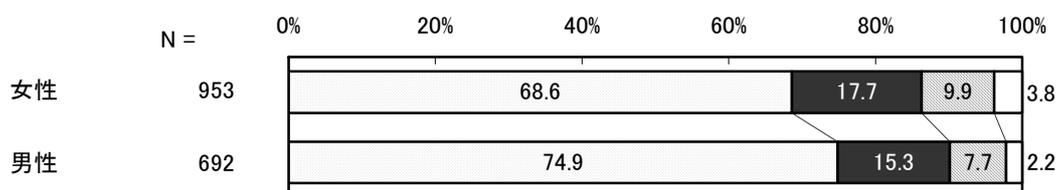
②草津市男女共同参画推進計画「女（ひと）と男（ひと）のパートナープラン・くさつ」



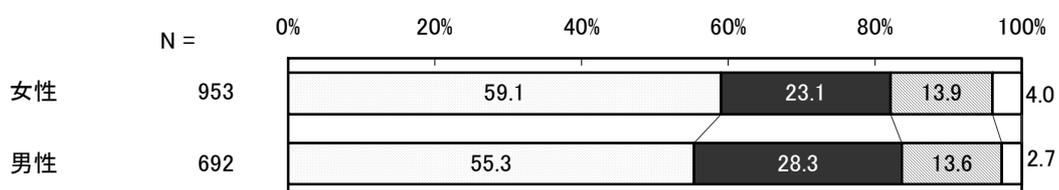
③女子差別撤廃条約



④男女雇用機会均等法

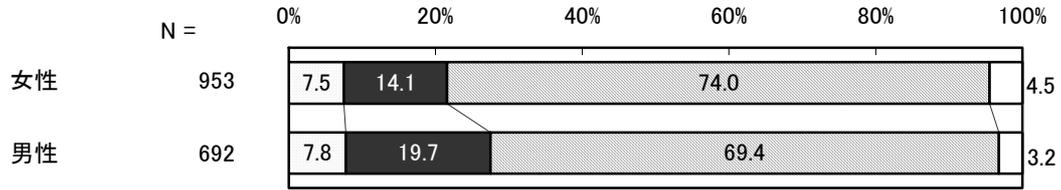


⑤育児・介護休業法



□知っていた ■聞いたことはある □知らなかった □無回答

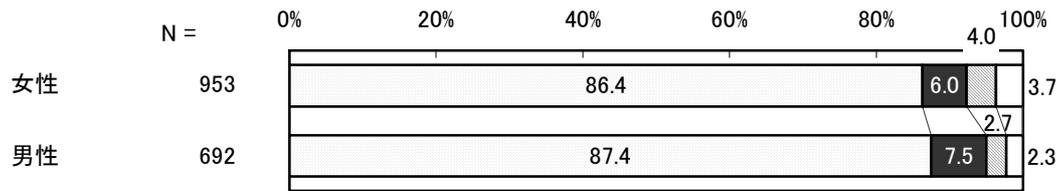
⑥エンパワーメント



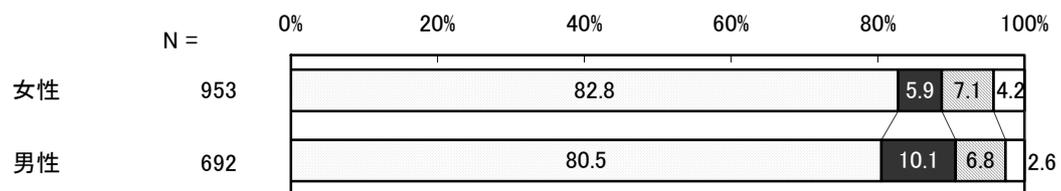
⑦ジェンダー



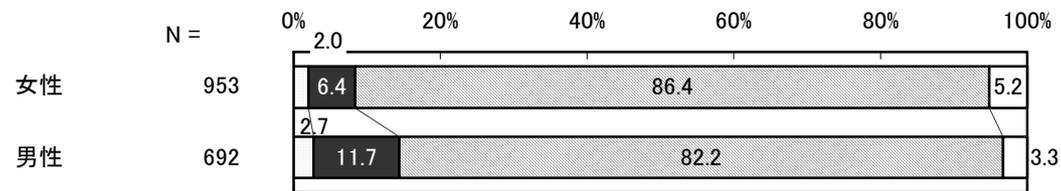
⑧セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）



⑨ドメスティック・バイオレンス（DV）



⑩家族経営協定



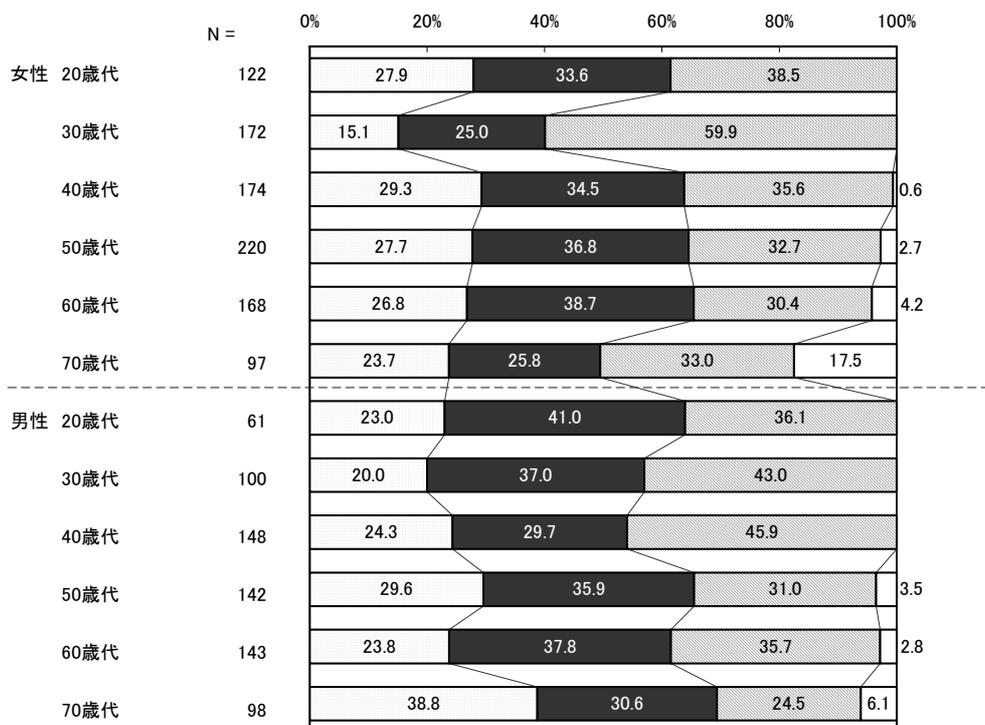
性・年代別でみると、「男女雇用機会均等法」では女性の40歳代以下で、「育児・介護休業法」では50歳代以下で、「ジェンダー」では40歳代以下で、「セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」では60歳代以下で「知っていた」の割合が高くなっています。

また、「男女雇用機会均等法」では男性の60歳代以下で、「育児・介護休業法」では40歳代以上で、「ジェンダー」では20歳代で、「セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」では60歳代以下で「知っていた」の割合が高くなっています。

図 性・年代別でみる言葉の周知状況

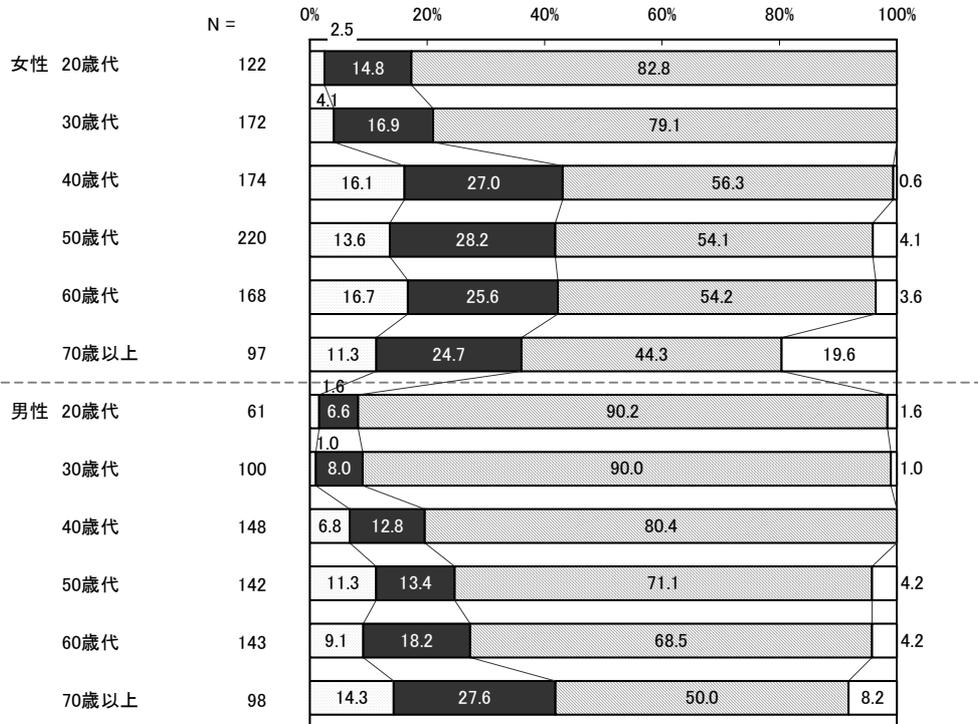
□知っていた ■聞いたことはある □知らなかった □無回答

①男女共同参画社会基本法

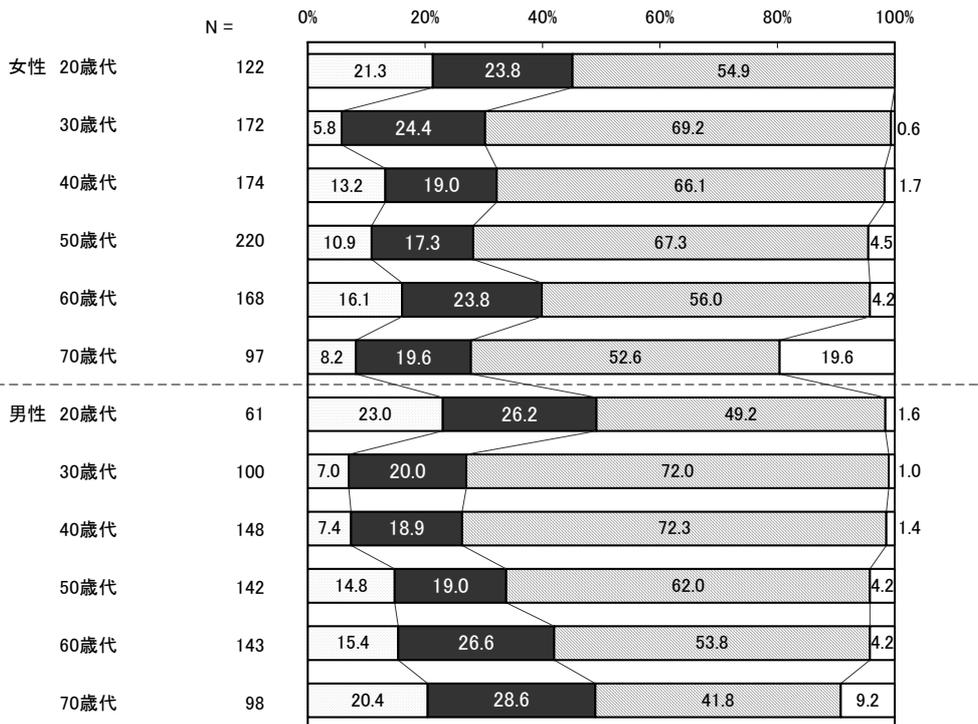


□知っていた ■聞いたことはある □知らなかった □無回答

②草津市男女共同参画推進計画「女（ひと）と男（ひと）のパートナープラン・くさつ」

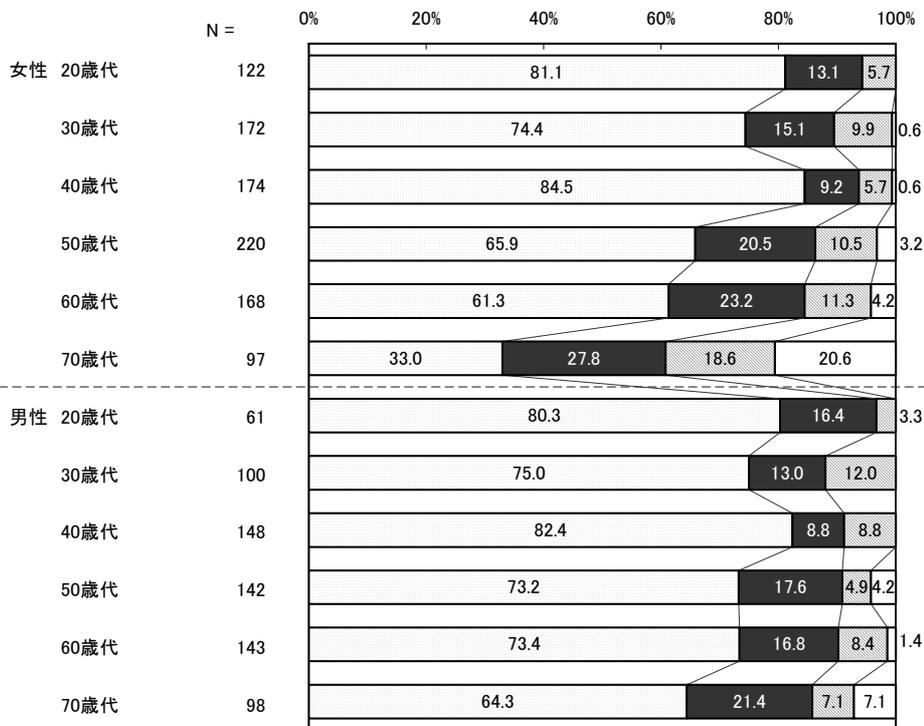


③女子差別撤廃条約

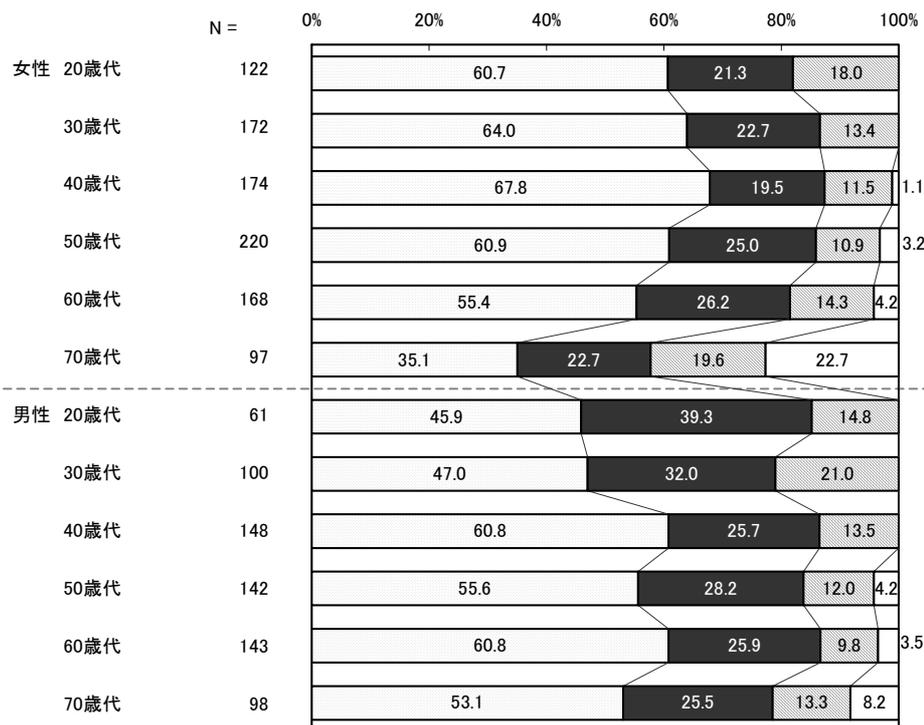


□知っていた ■聞いたことはある □知らなかった □無回答

④男女雇用機会均等法

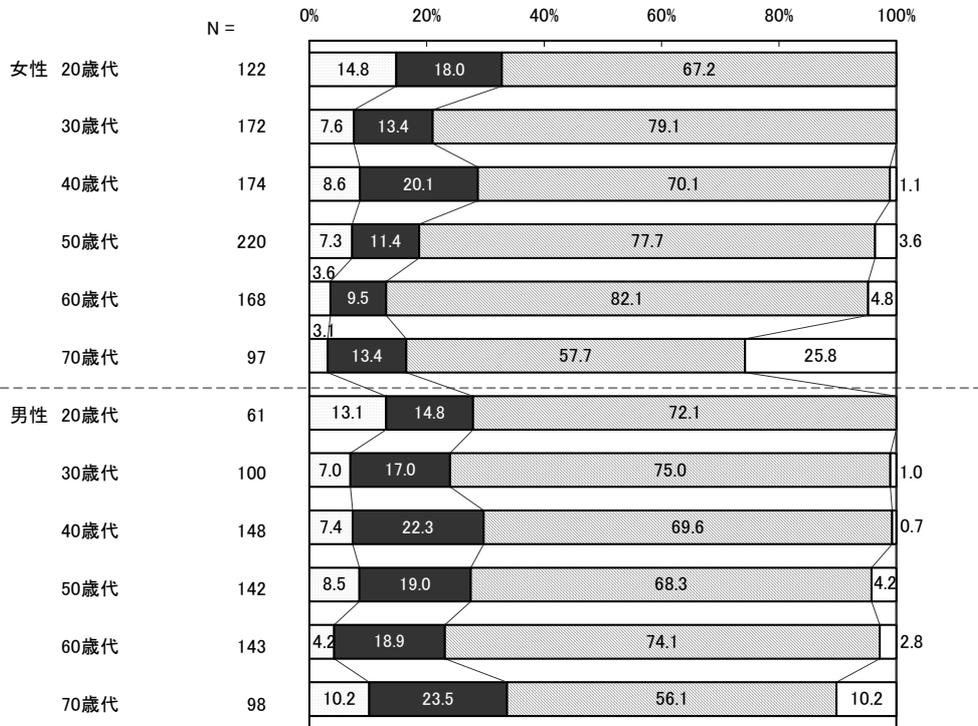


⑤育児・介護休業法

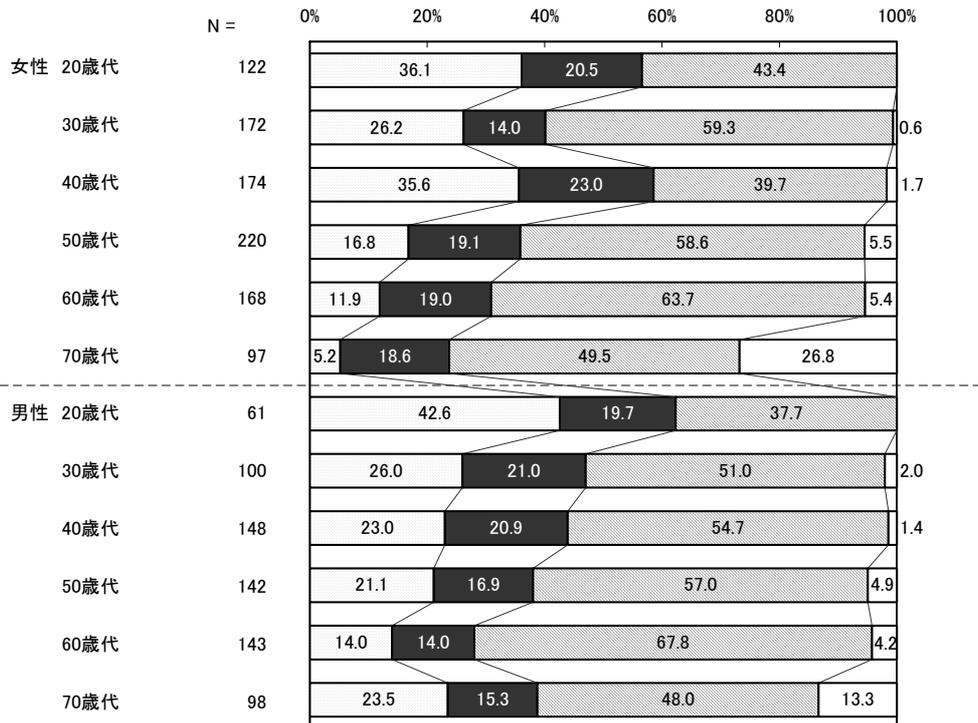


□知っていた ■聞いたことはある □知らなかった □無回答

⑥エンパワーメント

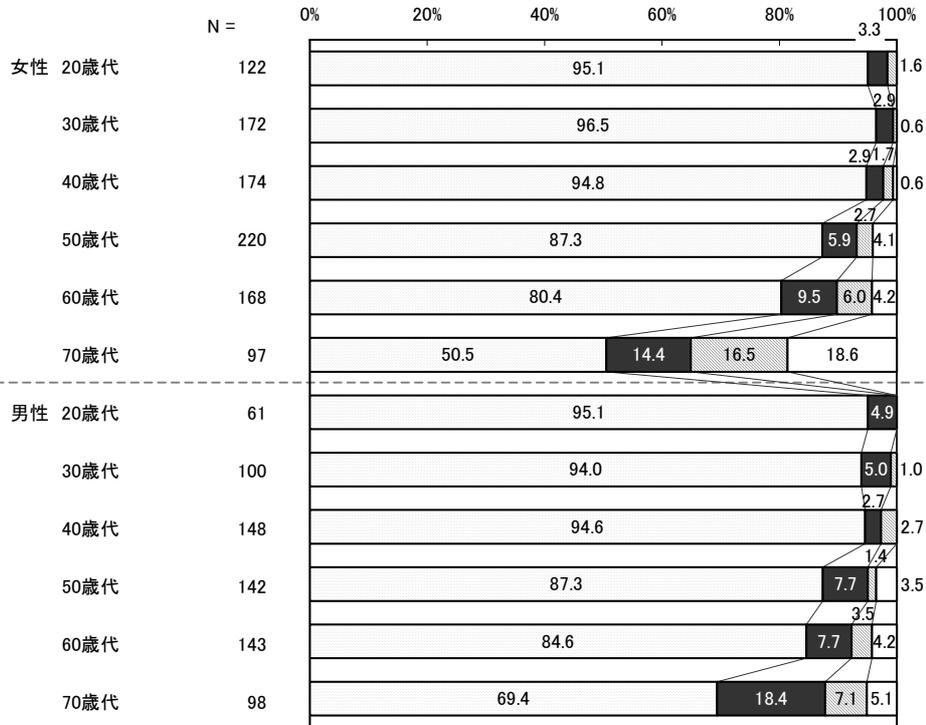


⑦ジェンダー

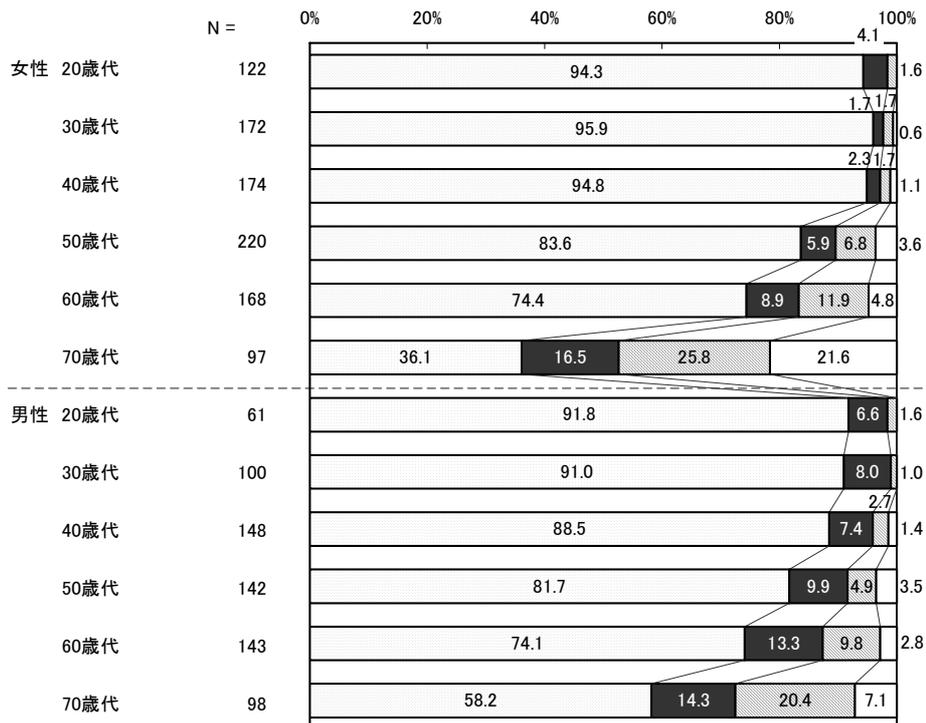


□知っていた ■聞いたことはある □知らなかった □無回答

⑧セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）

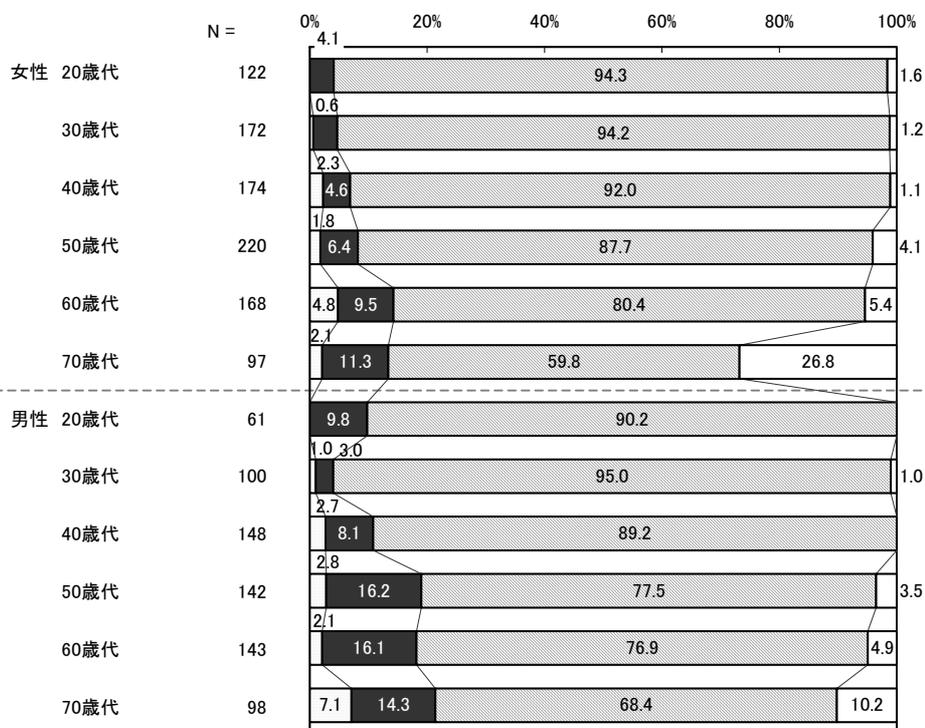


⑨ドメスティック・バイオレンス（DV）



□知っていた ■聞いたことはある □知らなかった □無回答

⑩家族経営協定



問 39 男女共同参画社会の実現に向けて草津市が今後特に力を入れるべきだと思うものはどれですか。(〇は3つまで)

男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべきものについては、「働く男性、女性を支援するための保育、家事、介護サービスなどを充実させる」の割合が最も高く 62.6%となっており、次いで「学校教育の中で、男女平等や男女の共同参画についての教育を進める」の割合が 34.2%、「働く場での男女格差を無くすよう事業主などに対して働きかける」の割合が 32.1%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「市の政策・方針を決定する審議会の委員などに、女性を多く登用する」の割合が低くなっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「働く男性、女性を支援するための保育、家事、介護サービスなどを充実させる」、「男性も、保育・家事・介護などができるよう、経験・学習する場を設ける」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「男女が共に参画する地域活動、ボランティア活動を促進する」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、女性で年齢が高くなるにつれて「働く男性、女性を支援するための保育、家事、介護サービスなどを充実させる」、「男性も、保育・家事・介護などができるよう、経験・学習する場を設ける」の割合が低くなる傾向にあります。また、男性の 20 歳代で「働く場での男女格差を無くすよう事業主などに対して働きかける」の割合が高く、40 歳代から 60 歳代で「学校教育の中で、男女平等や男女の共同参画についての教育を進める」の割合が高くなっています。

図 男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべきもの

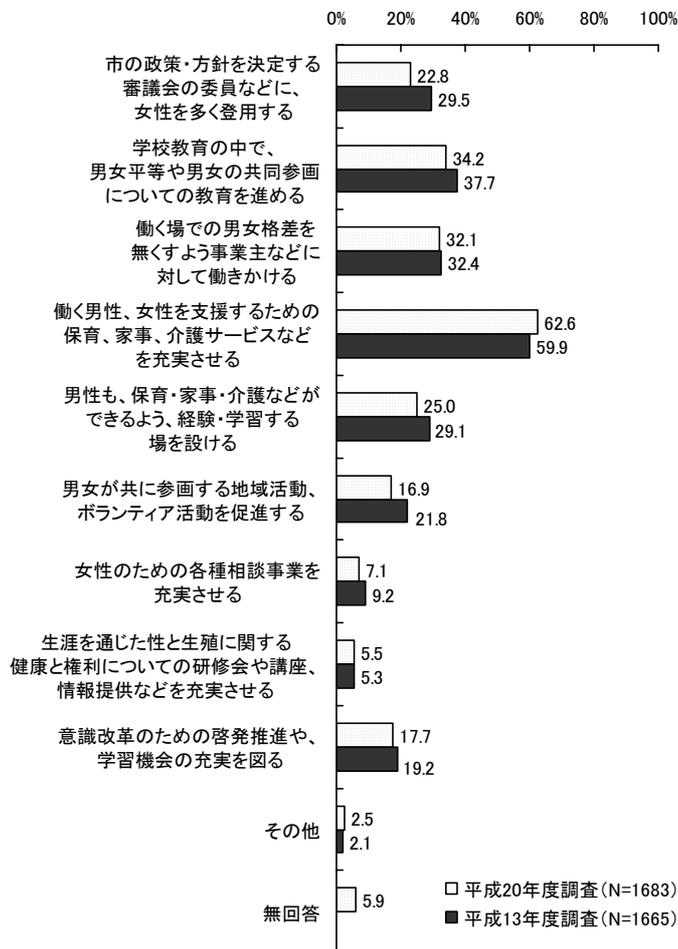


図 性別でみる男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべきもの

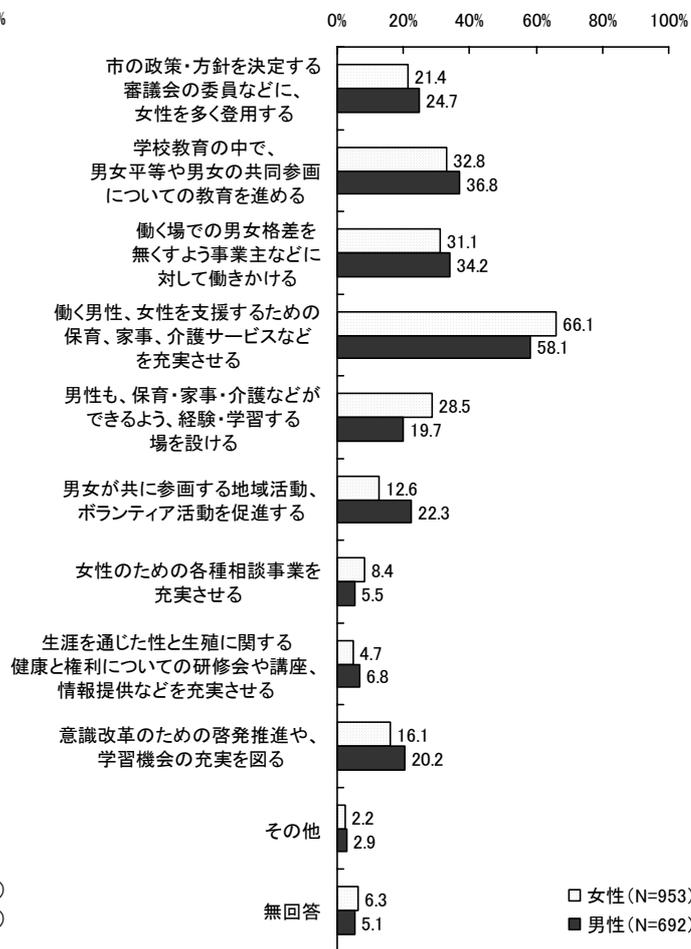
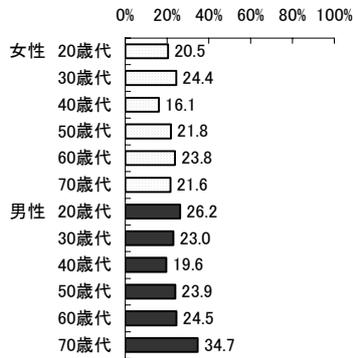
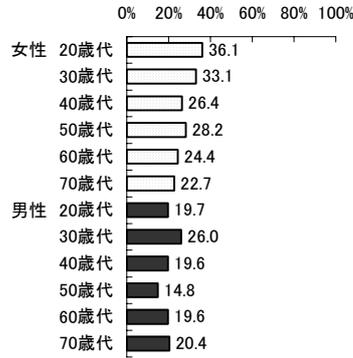


図 性・年代別でみる男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべきもの

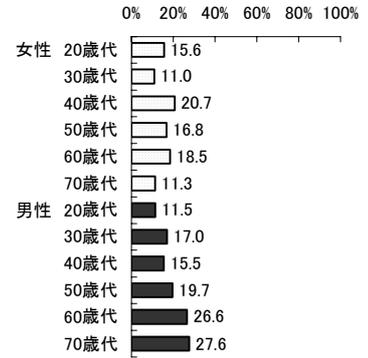
市の政策・方針を決定する審議会の委員などに、女性を多く登用する



男性も、保育・家事・介護などができるよう、経験・学習する場を設ける

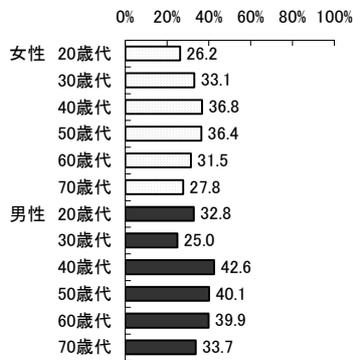


意識改革のための啓発推進や、学習機会の充実を図る

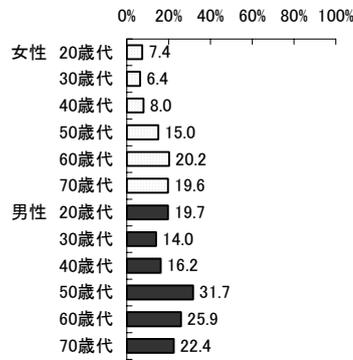


N=
122
172
174
220
168
97
61
100
148
142
143
98

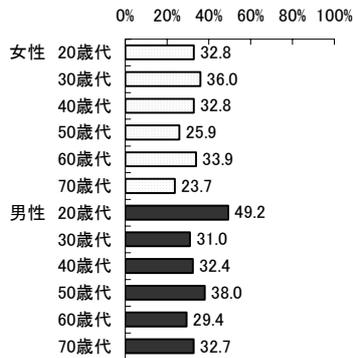
学校教育の中で、男女平等や男女の共同参画についての教育を進める



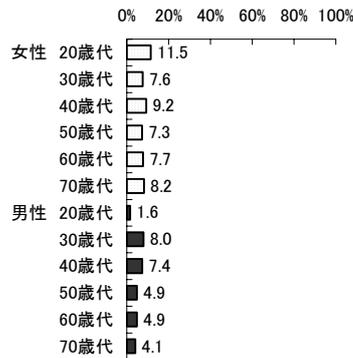
男女が共に参画する地域活動、ボランティア活動を促進する



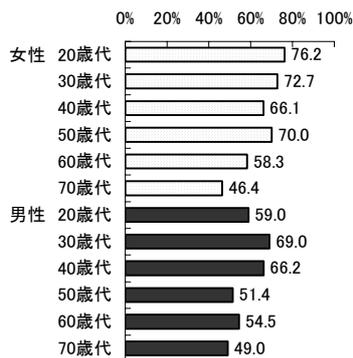
働く場での男女格差を無くすよう事業主などに対して働きかける



女性のための各種相談事業を充実させる



働く男性、女性を支援するための保育、家事、介護サービスなどを充実させる



生涯を通じた性と生殖に関する健康と権利についての研修会や講座、情報提供などを充実させる

